

中央館と地域館・分館の機能分担案（全般）

第2回（2018.11.13）の意見は●で記述

現 状・課 題		地域館・分館機能	中央図書館機能	その他議論上がったこと
全般	図書館方針に基づき各館またはプロジェクトチームで対応 全体としての取組みの推進	地域情報・状況を中央館にフィードバック 地域の実績や利用状況を踏まえた事業提案 地域館・分館の主体性、特色を活かした図書館活動・サービス 地域館・分館の決定権限	現状分析、調査、研究、企画立案等、図書館方針の迅速な決定が可能となる“オール豊中”の事業実施 サービス計画の立案	●図書館サービスが市内どこでも等しく受けられることが大前提 ●借りたい時期を選んで予約できるサービス
	各館での人材固定化による応援体制の調整	利用者対応の最前線 現場の状況に応じた人員体制の確保 地域の（町の）図書館の職員としての役割	人材の集中による状況に応じたフレキシブルな人員体制の整備	●災害時にも臨機応変に対応
	各館の事業をそれぞれがPR・発信	利用者ニーズ、地域の情報を中央館にフィードバック	館報の作成やプレスリリースの一括管理 SNS等を活用した情報発信の一元化	【PR】 ●環境の変化により図書館に対する住民のニーズが変化している。図書館のほうから新たなサービスの提案がほしい ●ターゲットにきちんと届くように。豊中全体としてのニーズの把握とターゲットの絞り込みが必要 ●地域の図書館と学校の連携（例：図書館で学校の作品の展示） ●図書館を使った成功体験をPRに活かす ●図書館検定：図書館の働きについて理解を深め、より広く知ってもらうために図書館検定のようなものを実施する等 【ニーズ把握】 ●地域館がきちんと把握し地域毎の特色を出す→他の館にも波及、共有できるとよい ●学校のカリキュラムに沿ったニーズ調整 ●子どもたちに図書館でやってほしいことを聞いてみる ●市民のニーズを拾える状況ができれば中央館・地域館が機能する ●図書館員が地域の場へ出て地域の活動に参加する積極的なニーズ把握
	リスクマネジメント	事故や災害等の発生時の初期対応	リスク管理、司令塔的な役割 ●関係部署との連携、対外的な接点 ●臨機応変に対応できる人員体制	●災害時対応は長期化する。避難者の受け入れから次の段階の見通しが必要

現 状・課 題		地域館・分館機能	中央図書館機能	その他議論上がったこと
資料収集・提供・保存	資料の分散化	基本的な一般書 赤ちゃん向け絵本等児童書 ●保護者向けの資料（育児等） ●趣味・季節・行事の本 地域ニーズをふまえた資料提供 ●史料、郷土資料、自分たちの地域の本物の資料（自分たちの町のことを自分たちで残していく→地域館の役割では？） 新聞の閲覧	入門書から専門的レベルの資料情報まで揃い、比較閲覧可 行政資料の集中 レファレンスコレクション・データベース 児童書のコレクション 選書委員会機能強化 選書から受入、除籍まで集中化 全館的な保存書庫機能 ●NDCのつながりが見えるコレクション ●知識全体の体系が見えるコレクション、 ●子どもたちが新しい知的好奇心に出会えるコレクション ●地域館で集めた地域情報を中央館が整理して提供	【地域資料の収集】 ●写真、地域の風景も含め地域の資料（史料）を保存していく必要がある→アーカイブ機能 ●本物の郷土資料を子どもたちが手にする、目にすることができるコレクション、郷土資料館的な役割 ●地域資料は資料だけではない。地域のことに詳しい人も資料になる→人材バンク機能 【コレクション構築】 レファレンスコレクションを整えた中央館と、貸出中心の地域館・分館（レファレンスライブラリーとレンディングライブラリー） ●地域館として機能するために最低限どれくらいのコレクションが必要か ●中央館のコレクションを作るためにどこを削るのか 【その他】 ●豊中市のイベントとうまく連携する、図書館がその中に入って次につなぐことができればよい。図書館が中に入ってネットワークを作る→資料も集まる 調べもののレベルは人によって違うが、どんなレベルに対しても満足度があがるようにしてほしい ●ワンストップ：中央館のレファレンス部門（資料と職員）にオンラインで地域館からアクセスできる
	レファレンス	受付窓口としての役割強化・レファレンスの初期対応 レファレンスを広く知らせる役割 誰でも何でも相談できる身近な存在 ●どんなレファレンスでも地域館で受け、中央館との連携により、きちんとした回答を届ける	専門的なレファレンスの機能・資料の集約（ワンストップサービス） ●新しい知的な体験に出会える整ったレファレンスコレクションとたくさんの専門書	【中央館と地域館の役割分担】 ●地域館のレファレンスの機能、役割、レベルに線引きが必要→【コレクション構築】 ●児童生徒のレファレンスの対応は？ ●地域館と中央館の連携をどうするのか、仕組み作り 初期対応の職員のレファレンス力が重要
レファレンスサービス	地域資料・情報が各館に分散 連携窓口の分散	地域情報・課題の収集、中央館にフィードバック	複合化した課題に対応（多文化共生×子育て支援、子育て支援×就労） 各種機関との連携等対外的な調整の一元化によるスムーズな連携	【地域課題に対する図書館への期待】 ●アーカイブ機能（地域の風景を残す） ●人材バンク機能（学校で昔の地域のことを学ぶ時のサポート等） ●外国人の方への支援 ●未就園児の保護者への支援、就労につながる支援

中央館と地域館・分館の機能分担案（多様な学習機会の提供）

第2回（2018.11.13）の意見は●で記述

現 状・課 題		地域館・分館機能	中央図書館機能	その他議論に上がったこと
多様な 会場の 提供 学習	全館調整	身近な施設での事業開催	講座などを企画・開催（図書館活用講座、 情報検索・リテラシー講座など） ICT・図書館システム等の環境整備 ●インターネット、ICTだけではない図書 館ならではの講座が必要	市民がそこで交流でき、いろんな本に出会える場 異質なものとのお会いが具体的にある場所 【社会に還元する機会の提供】 ●市内で開催される各種講座が単発的。受講後に次の ステップとなるような情報提供、実際に活動を始めよ うとするときの提案や情報 ●学ぶ機会を作る、学んだことを活かす場を提供する
	学習(自己・グループ等)の場の不足	●学習成果の発表の機会	学習成果の発表の機会	【図書館らしい情報提供のあり方】 ●生涯学習情報の提供、豊中全体で提供されている 様々な学習機会・情報を整理して提供 ●地域館で情報を収集、中央館に集約し、整理して提 供 【多様な学習機会・発表機会】 ●利用者が図書館を使って課題解決した事例（成功体 験）を市民が講師になって交流する機会→【PR】 ●市民が主体となって交流できる学習機会 ●図書館が持つ力を具体例とともに広めていく工夫が 必要

中央館と地域館・分館の機能分担案（利用者に応じた図書館サービス）

第2回（2018.11.13）の意見は●で記述

現 状・課 題		地域館・分館機能	中央図書館機能	その他議論に上がったこと
利用者に応じた図書館サービス	乳幼児と保護者	ブックスタート事業への参加 ●ブックスタートの人材育成 利用者への直接サービス（資料案内・利用案内等） 子どもたちが安心して利用できる地域に根ざした図書館	サービス全体の調整・統括（発信力向上） ブックスタート事業統括	<p>【子どもの読書離れをくい止めるプランニング】 ●親子でゆったり読書を楽しむ環境の整備（くつろいで本を読めるコーナーetc） ●すぐに結果を求めるのではなく、調べる過程を大切に ●言い続ける、やり続ける、発信し続ける</p> <p>世代ごとにつないでいく図書館サービス計画 不読者層への働きかけ 学校や社会との学びの接続</p> <p>【学校図書館への支援と連携】 ●中央館の調整・統括機能により、より厚いサポートを期待 ●人と資料の連携がどこまで可能か ●学校図書館の授業での活用、子どもと本をつなげる様々な手法の取組みを市立図書館がバックアップ ●学校での読書活動への支援（読み聞かせ活動のための講座、地域館での開催）</p>
	児童・成人・高齢者	利用者への直接サービス（資料案内・利用案内等） ●施設の整備（椅子の配置、カートの設置等）	サービス全体の調整・統括（発信力向上）	
	障害者及び来館困難者	利用者への直接または取次サービス 潜在的利用者、隠れたニーズの把握	全域サービスの調整・統括 協働事業・ボランティアの窓口 宅配サービス	
	外国人等	利用者への直接または取次サービス 潜在的利用者、隠れたニーズの把握 ●アウトリーチ、外国の方に図書館に来てもらう仕組みづくり	全域サービスとして多文化共生理解 外国語や日本語習得用の資料収集・提供 関連事業の企画 全域サービスとしての情報共有と発信強化 ●国立民族博物館との連携？	
	小中学校図書館支援	各エリアでの学校・学校図書館からの個々の資料相談・利用相談 ニーズを中央館へフィードバック	学校図書館と市立図書館との連携、調整、事業統括 各学校図書館への支援（団体貸出・レファレンス）体制の再編	
	団体等	団体への直接または取次サービス	団体貸出等アウトリーチサービス 動く図書館の拠点	
	ブックスタート事業への参加 利用者への直接サービス（資料案内・利用案内等）			

中央館と地域館・分館の機能分担案（市民協働事業等の促進 職員）

第2回（2018.11.13）の意見は●で記述

現 状・課 題		地域館・分館機能	中央図書館機能	その他議論に上がったこと
市民協働事業等の促進	協働事業間での情報交流の機会づくり	ボランティア活動の場 地域ニーズの把握 地域の図書館での協働の強化	市民協働事業の拠点機能 市民活動に関わる必要な資料・情報提供 ボランティアの活動調整	<p>【連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●連携によりカバーできるところはお互い利用する（例：南部コラボ、国立民族博物館との連携？） ●地域でやってきたことを全体で共有し、ネットワークをさらに強化する ●ネットワークを市民全般、豊中全体に広げることが課題 <p>【豊中の図書館の強み】</p> <p>→中央館構想で活かしていく</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域・市民との連携、市民と近い図書館 ●地域館が地域の利用者・市民との繋がりを強くしてきた、市民と作ってきた足腰の強さ＝豊中の図書館らしさ
職員	全体的な調整	OJTでの人材育成	長期的なキャリアパスを意識した人材育成	<p>【人材育成】</p> <p>図書館のあり方とか社会的な役割や情報リテラシー、ICT教育など、情報全体に関わる人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ●先回りして現状を把握し図書館のあり方を打ち出せる人材育成 ●現代的な課題に対応できる人材育成 ●図書館職員のキャリアパスを全国に先駆けて構築を期待。 ●人材育成が市民にどう還元されるのかが重要 ●豊中市のためになるキャリアパスとは？図書館が想定しているキャリアパスが見えない ●市民にとってメリットが伝わる形が必要 ●市民が何を聞いても応えられる人を育てる <p>キャリアパス：豊中市立図書館に求められる図書館員像を示し、そのための人材を育てるためのキャリアパス</p>